

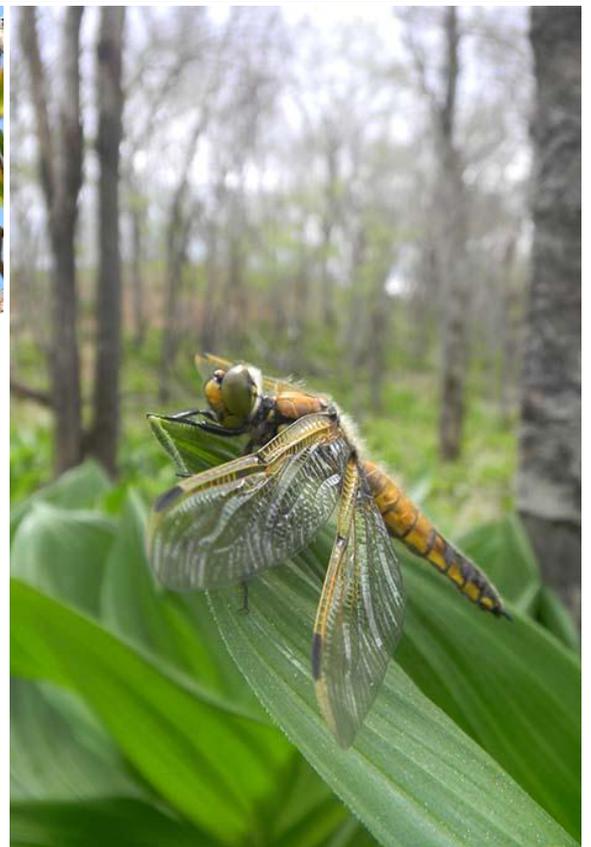
月刊 やちまなこ

2015.5.15 発行

No. 210

5 月号

釧路湿原国立公園 塘路湖エコミュージアムセンター（あるこっと）だより



湿原散歩

今年は昨年より6日早く釧路地方にエゾヤマザクラが咲き、一足早く咲いたキタコブシとともに釧路湿原の丘陵地を彩っていた。雪解け水で溢れた湿原も新緑が徐々に目立つようになり、センダイムシクイやエゾムシクイの鳴き声が聞かれ、足元に咲く花には虫たちが集まる。季節の歯車に合わせるように湿原も生きものたちも活気に満ちた季節を迎えた。

コッタロ川と湿原のほとりから

179 5月のコッタロ湿原便り

コッタロ在住. 中本 アキ子(文) 中本 民三(写真)



“草に木に芽吹き急がす鳥の声” 多くのソプラニストがドットと渡来してイブ・ナットの奏でるピアノの音色と共演しているかの如くボーカリストぶりを発揮する中，“雛二つ連れて丹頂会にくる” 32日間の抱卵を終え無事に孵化した丹頂の第2コツ&タロの21, 22羽目が庭デビューを果たしたのは5月5日午前6時20分で2週間経ってからのことでした。暴風雪と4月のゲリラごう雨をくぐり抜けた幸運と『子育て上手』の彼等とは対照的に♂が入替わった第1コツ&タロの新カップルは、4月11日にようやっと産卵にこぎつけましたが、何事も初めての新入りにとって、ぎこちない交尾もさること乍ら、♀のみが抱卵するものと思っただけで、営巣開始からの3日間は、♀だけに任せ、♀が「エサ捕りに巣から離れてもトコトコあとからついて廻る始末。野生の本能にスイッチが入ったのが4日目からで、予定通り5月13日の孵化には疑問が残りますね。

ところで、昨年11月25日から我家の東と西に分かれて冬眠していたエゾシマリスは4月21日に♂が、25日に♀が各々の巣穴から出て、西側のエサ場でドッキング。6月のベビー誕生が待たれるこの頃です。“水仙の角吹く園にシマリスの目覚め鮮やか番となれり”

思い起こせば冬期間、あれほど期待していた『ぬいぐるみ』のような真白い冬毛のエゾオコジョが終に観られず、諦めかけていた4月下旬になって、車庫の下からひょっこり姿を現したではありませんか。しかも、愛くるしいまっ黒い瞳はつぶらで、お行儀よく前足をきちんと揃えて“ハイ、こんにちわ”としばらくの間佇んでくれたのでパチリ！！とてもどう猛な肉食獣には見えないでしょう？“衣替えきめて夏毛のオコジョ哉”

さて、季節を先取りした夏の突然の訪れで異常高温を記録した4月28日から朝の気温も氷点下を脱却し、日中の急激な気温の上昇にあわてふためいたのは人間ばかりで、やれ畑耕こしに、鹿除けネット張りに、はたまた野菜等の種入れにと、矢継早の作業に大わらわ。一方、川の見廻りとゴミ拾いの日課をこなしていると、今年も幻の魚が4月22日からそ上してきて、“母川にイトウのぼりて産卵す” ♂の見事な婚姻色の緋色がいつ迄も目に焼き付いていて離れませんね。

今季の記録的な大雪の恩恵は早速大地に出現して山菜の生育が例年になく旺盛で稀にみる大豊作。この分なら畑作物にも好影響があるものと大いなる希望を抱きつつ、伸びてきた草取りに精出していると、“春耕恥らい潜るオケラ哉” このケラと云う昆虫が殊の外多く這い出してきた、調べてみると、雑食性で植物の根やミミズ等を食べるコオロギに近いなかまだと云うことが解りました。実体長は3cmですが写真では拡大した全姿を御覧に入れましょう。

湿原の住人たち その170

オオバナノエンレイソウ

例年より早くオオバナノエンレイソウが見頃を迎えています。葉っぱもがく片も花びらも3枚で、Trillium（3つのユリ）という学名が付いています。北海道と本州北部に自生しますが、この辺りでは「あめふりぼたん」とも呼び、この花を摘むと雨が降るので遠足の前にとってはいけない、という言い伝えがあります。発芽から開花までに10年という長い年月がかかる花をいとおしむ気持ちが表れているようです。明るい林やその縁で、空を向いて咲く大花延齢草を愛でながら散策しませんか。
【4ページ下の写真参照】

春の訪れとともに・・・シラルトロ湖・蝶の森周辺で野鳥観察



4月18日にタンチョウコミュニティ音成邦仁さんの解説で春のバードウォッチングを開催しました。久しぶりの晴れ間に鳥たちの動きも活発で、北帰行のヒシクイがV字飛行で何組も通過しました。枝をくわえて飛ぶトビや木の穴から顔を出すゴジュウカラ、湿原で抱卵中のタンチョウの様子に、繁殖期の始まりが感じられる観察会となりました。

☞電柱にドラミングするアカゲラを観察中

また、今月9日「湿原の野鳥観察会」が開催され、集合場所の駐車場周辺から野鳥の鳴き声が聞こえ、講師の根室市自然野鳥観光推進員の有田茂生さんに双眼鏡の使い方を教わり、しばらく練習したあとフィールドを散策しました。

シラルトロ湖は雪解けにより水位が高く、白波の中にカワアイサの群れが見え、蝶の森では木の枝でさえずるヒガラやアオジ、スズメに似たニューナイスズメ、路上を忙しそうに走るハクセキレイや夏鳥のエゾムシクイやセンダイムシクイなどを含め、27種類の野鳥を観察しました。講師から野鳥も種類により棲み分けしていることや繁殖期の野鳥観察の注意点なども教わりました。

今年は珍しくお花見（エゾヤマザクラ）しながら？の観察会でした。



顔も綻んだ観察会

なべじゅんのとうろうろうろ日記 Vol.1 「車窓から見た湿原」

澄み渡った青と太陽のオレンジが混ざりあった夕暮れの空の下、釧路行き普通列車に乗り込む。列車は途中、湿原の中を進んでいく。塘路駅から発車して、5分ほど、湿原の陸地が川からあふれた水によって、何か所か浸水している。残された陸地では、鹿の群れが水を飲み、地平線の向こうには、丸い輪郭を保ったまま沈む太陽が見える。「きれい」前の席にいる老夫婦が思わずつぶやく…な～んて、はじめまして、今月からネムネムのうろうろ日記を引き継ぎました、なべじゅんこと渡邊淳一です。単に、自動車の運転が苦手なので、列車に乗ったら、たまたま見ることができた風景でした。塘路周辺は、列車から見る風景がとても綺麗だと思います。忙しい日常から少し離れて、ゆっくり列車で湿原を巡ってみてはいかがでしょうか。

渡邊 淳一（標茶町郷土館学芸員）

